令和５年度老人保健健康増進等事業

入・退院時情報連携標準仕様の階層化に向けた調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

入院時情報提供書等のデータ連携のための「標準仕様」については、先行調査研究事業において、医療機関と介護事業所の間の情報連携を推進し、現場の負担軽減を図る目的で、構造化データであるCSVファイルでやり取りする前提で作成している一方、医療機関同士でのデータ交換においては、スムーズなデータ交換のため、厚生労働省医政局では階層構造を持つJSON形式で記述するHL7FHIRを交換規格としている。

そこで、本事業においては、入院時情報提供書等の標準様式や標準仕様について、保険者や事業所における活用状況等の実態把握を行うとともに、標準仕様を階層構造で記述する場合の課題を整理し、有識者や事業者団体等により組織する委員会においてとりまとめを行った。

1.　検討委員会の設置・開催

入・退院時情報連携標準仕様のあり方に関して検討を行うため、検討委員会を３回実施した。

2.　アンケート調査

居宅介護支援事業所・訪問看護事業所・保険者（自治体）に対し、入退院時の情報・看護情報の連携状況などについて実態を把握するためアンケート調査を実施した。

3.　ヒアリング調査

アンケート調査で回答のあった事業所のうち、事業所でのICT活用状況や情報連携に関する課題等について、詳細を把握するためにヒアリング調査を行った。

4.　入・退院時情報連携標準仕様の階層化についての検討

入・退院時情報連携標準仕様の階層構造化に向けた課題整理を行うことを目的とし、医療側の文書との整合性、およびHL7FHIR記述仕様に準拠した記述ができるかの２点から検討した。

調査結果のまとめ

本調査では、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所とも、医療機関とのデータのやり取りに関しては、連携先の病院・事業所のシステム導入状況や情報の記録・保管手段等に左右されることが多く、データ連携を見据えた記録・保管が進んでいないことが明らかとなった。情報連携の様式やデータ項目を統一した上で、事業所で保存されたデータが自動または負担が少ない形で連携される仕組みを構築する等、事業所間での情報連携を効率化した上で、データ連携のメリットを理解いただく施策が必要と考える。

入退院時情報連携標準仕様及び訪問看護計画等標準仕様階層化については、今後、医療と介護の情報連携が推進されていくにあたって、情報連携の方式・規格が異なっている場合、それぞれバージョン管理やソフトベンダーの開発工数が増えることが想定されるだけでなく、項目の持ち方の違いにより、似たような項目を複数回入力することが必要になるなど、オペレーション上の課題も発生しうる。ただし、現状の入退院時情報連携標準仕様、訪問看護計画等標準仕様の項目は診療情報提供書FHIR記述仕様と類似する項目が存在するため、項目定義の具体をより丁寧に議論することが望ましい。